

# 褥瘡発生率

- 分子

- 調査期間における分母対象患者のうち、d2以上の褥瘡の院内新規発生患者数
  - 包含
    - 院内で新規発生の褥瘡(入院時刻より24時間経過後の褥瘡の発見または記録)
    - 深さd2以上の褥瘡、深さ判定不能な褥瘡(DU)、深部組織損傷疑い

- 分母

- 入院延べ患者数
  - 除外 下記患者の入院日数
    - 日帰り入院患者(同日入退院患者も含む)
    - 入院時にすでに褥瘡保有が記録(d1,d2,D3,D4,D5,DU)されていた患者\*<sup>1</sup>
    - 調査期間より前に褥瘡の院内発生(d1,d2,D3,D4,D5,DU)が確認され、継続して入院している患者\*<sup>2</sup>

\*1 院内での新規発生に限定

\*2 すでに褥瘡が発生している患者群を除き、調査期間内に院内新規発生の可能性がある患者に限定

# 分母(入院延べ患者数)の算出方法

- 調査期間(例:9/1~9/30)の各患者の入退院ごとの入院日数の合計を算出
  - 除外 下記患者の入院日数
    - 日帰り入院患者(同日入退院患者も含む)
    - 今回入院時にすでに褥瘡保有が記録(d1,d2,D3,D4,D5,DU)されていた患者
    - 今回調査期間より前(例:8/31以前)に、褥瘡の発生が確認(d1,d2,D3,D4,D5,DU)されている患者

# 分母・分子計算例①

例1:

患者Aの入院期間が2010/7/1～2010/11/30で、調査期間が2010/9/1～2010/9/30、褥瘡発生日が2010/9/15の場合、分母に30、分子に1とする。

例2:

患者Aの入院期間が2010/7/1～2010/11/30で、調査期間が2010/9/1～2010/9/30、褥瘡発生日が2010/8/15の場合、分母から除外、分子からも除外。

例3: (治癒して再度発生した場合、異なる部位に発生した場合等)

患者Aの入院期間が2010/7/1～2010/11/30で、調査期間が2010/9/1～2010/9/30、褥瘡発生日が2010/8/15と2010/9/15の場合、分母から除外、分子からも除外。

患者Aの入院期間が2010/7/1～2010/11/30で、調査期間が2010/9/1～2010/9/30、褥瘡発生日が2010/8/15(d1)と2010/9/15(d2以上)の場合も、分母から除外、分子からも除外

例4:

患者Bの入院期間が2010/7/1～2010/9/15で、調査期間が2010/9/1～2010/9/30、褥瘡発生日が2010/9/10の場合、分母に15、分子に1とする。

よって、例1～例4のみ場合には分母は $30 + 15 = 45$ 、分子は $1 + 1 = 2$ となる。

# 分母・分子計算例②

	調査期間外	調査期間 (9/1~9/30)	調査期間外	分母	分子
例1	7/1入院 ←————— —————→	—————→	11/30退院 —————→	30	1
例2	7/1入院 ← —————→	—————→	11/30退院 —————→	除外	除外
例3	7/1入院 ← —————→	————— —————→	11/30退院 —————→	除外	除外
例4	7/1入院 ←————— —————→	————— —————→	入院時褥瘡なし ← —————→	15	1
調査期間に複数回入院がある場合 対象となる複数回の入院日数を合計する		9/2入院 10/13入院 入院時褥瘡あり ←   —————→	9/25入院 入院時褥瘡なし ————— —————→	8	1
	7/1入院 ←————— —————→	9/5退院 9/18退院 9/28退院	9/25退院 9/28入院 11/10退院 ————— —————→	28	0

  
 褥瘡発生

調査期間内の対象入院患者の入院日数と  
入院期間中の褥瘡新規発生

10月以降の対象

# 調査期間・データ提出日

- 調査期間
  - 平成24年(2012年)4月～平成25年(2013年)3月
- データ提出日
  - 翌月20日までに提出
    - 例: 4月1日～30日分のデータを5月20日までに提出

# データ提出形式

#	項目名称	内容	入力条件
1	施設コード	都道府県番号2桁+医療機関コード7桁 例: 011234567	必須
2	調査開始日	0~9からなる8桁の数字YYYYMMDD 例: 2010年9月1日 → 20100901	必須
3	調査終了日	0~9からなる8桁の数字YYYYMMDD 例: 2010年9月30日 → 20100930	必須
4	d2以上の褥瘡の新規院内発生患者数	0~9からなる数字 例: 20	必須
5	d1のみの新規院内発生患者数	0~9からなる数字 例: 5	任意
6	褥瘡発生率対象入院延べ患者数	0~9からなる数字 例: 15000	必須
7	入院時にすでに褥瘡保有が記録されていた患者数	0~9からなる数字 例: 40	任意
8	調査期間より前に褥瘡の新規院内発生が確認され継続して入院している患者数	0~9からなる数字 例: 40	任意

※ #1はDPC様式1と同様の入力形式とする

# 参考資料

日本褥瘡学会

DESIGN-R (2008年改訂版褥瘡経過評価用)

Depth (深さ)	内容
d0	皮膚損傷・発赤なし
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を超える損傷
D5	関節腔、体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

# 参考資料

NPUAPとの対応

d0,1 : Stage I

d2 : Stage II

D3 : Stage III

D4, D5 : Stage IV

DU : UNSTAGEABLE

International NPUAP-EPUAP Pressure Ulcer Guidelines

NPUAP / EPUAP Pressure Ulcer Classification System

ステージⅠ : Non-blanchable erythema

ステージⅡ : Partial thickness

ステージⅢ : Full thickness skin loss

ステージⅣ : Full thickness tissue loss

Additional Categories for the USA

Unstageable/ Unclassified

Suspected DTI ( DTI 疑い ) : Suspected Deep Tissue Injury